

『チャレンジすることの大切さ』

西大路小学校 6年 山田 一稀

僕にチャレンジすることの大切さを教えてくれたのは西大路小学校の仲間でした。「あきらめず、やってみよう。」そう思えるようになったのは、6年生になって初めての行事であるたてわり発会式でした。

5年生までのぼくは、失敗しないように行動していました。授業で発表した時に緊張して文を間違えてしまったことがありました。そのことをきっかけに、失敗することが嫌になり、自分の考えを持っていても発表しないようになりました。音楽会などの学習発表会でも、自分が失敗して発表を台無しにしたくないという思いから、一生懸命に練習したはずなのに、自信をもって発表することができなくなっていました。

そんな風に過ごしてきて、6年生になった今年、全校で行う、たてわり発会式がありました。これまでの経験から全校児童の前に立って話したり、下学年をまとめたりすることに自信がなく、「僕にみんなをまとめることはできない。」と不安な気持ちを抱えたまま準備をしていました。そんな思いで迎えたたてわり発会式。下学年があまり話を聞いてくれなくて場が混乱してしまう時がありました。「どうすればいいんだろう。僕にできることはなんだろう。」と悩みました。「僕が行動したって失敗をするかもしれない。」とまた諦めそうになりました。でも、このたてわり発会式に向けて仲間と一緒に準備をしてきたことを無駄にしたくない、このまま終わるのは嫌だと思い、勇気を出して大きな声で「話を聞いてほしい」と言いました。すると、全員が僕の方を向いて話を聞いてくれました。そのおかげで、たてわり発会式は大成功に終わりました。この経験から自分にはできないと思っていることも自信をもってチャレンジすると新しい可能性が見えてくるということを知りました。

それからの僕は、色々なことにチャレンジするようになりました。小学校最後の運動会では、色長としてみんなをまとめることにチャレンジしました。下学年の前に立って応援合戦を教えたり、指示を出したりすることにとっても苦労しました。でも、「小学校生活最後の運動会を絶対に成功させたい」、「色長としてみんなをまとめたい。」という思いがあり、最初から諦めるのではなく、どうすれば上手いかわかをを考えて行動するようになりました。指示を出す時は相手の顔を見て、わかりやすい言葉を使ったり、言葉と共に見本を見せたりすることを意識しました。その結果、練習が進むごとに指示の出し方が上手にできるようになり、下学年に指示が伝わるようになりました。一度失敗しても「次はどうすれば良いか。」と考え、行動できたことは僕にとって大きな自信になりました。また、そんな僕を支えてくれる仲間がいました。僕が出した指示が全体に伝わっていない時には「色長の話を聞こう。」と大きな声で言ってくれたり、練習の進め方を一緒に考えたりしてくれました。僕はチャレンジすることを支えてくれる仲間がいるということがとても嬉しく、さらに力が湧いてきました。一人では難しいことも、協力してくれる仲間がいるからやり遂げたいという思いで、諦めず最後まで取り組んだ運動会は小学校生活の最高の思い出となりました。

失敗するくらいなら、やらない方がいいと思っていたままだったら、自分の可能性に気付くこともなく、後悔を抱えたままになっていたと思います。今、僕がそうになっていないのは、勇気を出してチャレンジすることの大切さに気付けたこと、それを応援してくれる仲間のおかげだと思います。これからも、どんなことでも「やってみる」ということを大切にしていきたいです。また、僕の挑戦を応援してくれる周りの人への感謝の気持ちを忘れず、自分の可能性をどんどん広げていきたいと思っています。